１１月報(2021 年) 萌　カトリック福山教会

福山教会活動テーマ：
「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」
〒720-0808　福山市昭和町 7―26
☎【084】923-0614　FAX【084】923-0615
e-mail ：fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

「死者の日」に関連して

昔から 11 月 2 日は「死者の日」とされています。日本ではいわゆるお盆や彼岸といった季節に墓参りが行われる習慣があるため、信徒であっても余り馴染みがないとか、意識したことはないという人も多いかも知れません。しかし、この日は主日と重なっても優先されることからも分かる通り、重要な祝日となっています。また死者の記念はキリスト教的な死生観や共同体観を表すものでもあるため、理解を深めることは有益であると思われます。

そこで、まずこの「死者の日」制定の歴史的経緯を簡単に確認し、その意味について考えたいと思います。そうして、おのずとミサの意向としての「死者の祈念」や「葬儀ミサ」、「死者のための祈り」、「免償」といったものへの理解も深まることでしょう。

ただ死者の日に祈念する「死者」は、決して親族等に限定されるものではありません。また、ミサについてもっぱら死者のために捧げられるものであるかのような印象を与えることは厳に避けるべきとされます。これらについて日本の司教団は「キリスト教における死者の記念と尊敬は、死者のために神に祈ることが中心になっています。祈りは、自分の身内、親類、その他関係のあった人たちのために献げるのは当然ですが、この世でわたしたちと縁のなかったすべての死者のために祈ることも大切です」（司教協議会諸宗教委員会,『祖先と死者についてのカトリック信者の手引き』, 1985, pp. 6-7.）と述べ、現在の教会法では「司祭は, 生者死者を問わず, すべての者のためにミサを捧げることができる」(901 条) とわざわざ規定されていることを、心の片隅に留めておいてください。

I.　制定の歴史的経緯

一般社会でも世界各地の習慣や年間行事の観点から解説されることの多い「死者の日」ですが、思い込みや行事に関連するイメージから解釈された説明がなされることもあります。私も思い付きでいい加減なことをいうわけにはいきませんので、まず「新カトリック大事典」のいくつかの項目と上智大学中世思想研究所編訳の「キリスト教史」、関口武彦著,『クリュニー修道制の研究』、阿部仲麻呂著,『使徒信条を詠む』などを参考に、概略をまとめてみることとします。適当に拾い読みしたり内容を把握したりしやすくするために、キーワードのようなものをそれぞれつけておきます。

i.　直接の起源:クリュニーの修道院と修道院長オディロン

「死者の日」の始まりについて自体は、有名なクリュニーの修道院の院長オディロン(在職994-1048/9)によって11世紀初めに彼らの「修族」の内に定められたと色々な解説でよく言及されますので、ご存知の方も多いことでしょう。

クリュニーの修道院は910年に創立され、「修道院長選出の自由」、「王、司教、伯、創立者自身及びその家族と子孫の誰も修道院の財産と生活規律について介入できないこと」、「教皇の直接保護(Libertas Romana)」を特徴としますが、要するに世俗権力の介入を排し、修道院の独立と自立を求め、修道規律の復興に努めました。彼らの修道院では厳格な沈黙の規定が定められ、比較的近年まで観想修道院にあった「手話」が生まれるなどしています。また中央集権的な構造をもち、後に生まれる「修道会」の組織の原型ともいわれます。

ともかく後に至るまで大きな影響を及ぼしたことは間違いありませんので、この修道院のことについて、時代背景も含めて少しだけ見てみましょう。

ii. 時代背景①：カール大帝、アルクイン、ルートヴィヒ敬虔王、アニアーヌのベネディクト

クリュニーの修道院の創立はカロリング朝(751-987)の末期にあたります(カロリング朝自体は王国分裂後、西フランクで987年まで続きますが、911年には直系が絶えており実質末期です)。「カロリングルネサンス」という言葉を聞いたことがあると思いますが、カロリング朝時代にはカール大帝が教皇の権威によって「西ローマ皇帝」として戴冠し、アルクインという現在の英国のヨークで司教座聖堂付属学校の校長をしていた助祭を招き宰相とし宮廷学校を開いたことから、聖書の写本の校訂(『アルクイヌス聖書』)や典礼の様式が整備(『Sacramentarium Gregorianum』の完成、ミサ中の信仰宣言の追加、典礼暦の11月1日に「諸聖人の祭日」を導入)されるなどしました。また後を継いだ息子のルートヴィヒ敬虔王は、「聖ベネディクトの戒律」の遵守を求めて修道生活を改革しようとしたアニアーヌのベネディクト会修道院長ベネディクトを重用し、彼らと関係が深まることによって開拓や知識や技術の伝播が進みました。しかし、このような教会と世俗諸侯の一見良好な関係は、教会や修道院の規律への介入も招きました。

iii. 時代背景②：封建社会と私有教会制度

既にカロリング朝時代以前から封建社会に沿う形で教会の制度的な面が理解され、封建制に組み込まれることで世俗の統治の影響を強く受けるようになり、特にゲルマン的な慣習の影響を受けてか「私有教会制度」と呼ばれる教会の建物などの財産や聖職者の任免権、献金に関する権利を諸侯が所有することが横行していました。こういった世俗の権力の介入は、教会の信仰に基づいた秩序を妨げるものでした。具体的に言うと、司教区ごとの共同体的な交わり、教会の統一性を壊してしまうのです。この時代、教会には司教の教会と、修道院や参事会の教会と、世俗諸侯の教会の3つがあるというような認識が、一般の人々の間にあったようです。

こういった状況で世俗の影響を排そうとしたクリュニー修道院の在り方は、今では歴史の用語として「クリュニー改革」や「クリュニーの改革派修道院」などと呼ばれますが、やがて広範な支持を受けて各地へと広まっていきます。世俗権力との対決姿勢を強く表した教皇グレゴリオ7世(在位1073-85)も、クリュニーの修道院の影響を強く受けています。

しかし、また時が経てば様々な形で世俗の権力の影響が出て来たり、時に悪い意味で世俗化したりするもので、教会の歴史には幾度もの改革や刷新の必要がありました。そしてそれは今後も同様です。

クリュニーの修道院自体も、配下の修道院の院長の任免権など強固な中央集権体制をもって世俗の権力を排しましたが、やがてその制度自体が封建化し(歴史家に「教会帝国」と揶揄されることもあります)、13 世紀からは衰退していきます。既にクリュニーの修道院が隆盛を極めたころ、修道生活を改革しようとシトー会やカルトゥジア会などが生まれ、クレルヴォーの聖ベルナルドはクリュニーの荘厳な典礼についてその華美を批判する説教を残しています。

iv. 時代背景③：聖俗双方での衰退や混乱、叙任権闘争

クリュニーの修道院は、西方で主流であった「聖ベネディクトの戒律(彼の集団での農耕生活に根差した「祈れ、働け／Ｏｒａ et labora」というモットーは有名です)」と、先に述べたアニアーヌのベネディクトの禁欲的な精神を受け継ぎつつ、農耕や肉体労働の義務を免除し、典礼の時間をより多く割り当てました(典礼祭儀の時間だけで１日８時間を超えたそうです)。ただ意外なことに、世俗社会との関りはあまり遠ざけようとはしませんでした。世俗権力の介入を拒絶しつつそうであるのは不思議かも知れませんが、カロリング朝の末期の聖俗双方での衰退と混乱の中で、修道院から世俗社会に働きかけることを目指していたからです。

聖俗双方での衰退と混乱という時代背景を見てみましょう。先に述べたルートヴィヒ敬虔王が宮廷の建築物が一部崩壊したのを見て自らの死が近いと考え、3 人の息子たちに王国を分割相続させようと計画(Ordinatio Imperii)を立てたのですが、結局その後長期間生存しており、しかも再婚して生まれた子にも相続させようとしたために混乱を生じさせます。結果として彼の死後戦乱が生じ、9 世紀半ばにカール大帝の「帝国」は、西・中・東の 3 つのフランク王国に分割されることとなりました(この分割されたフランク王国は、やはり戦乱を伴いながら中フランク王国の大部分が東西に割譲されることで、後のフランス王国とイタリア王国と神聖ローマ帝国とも呼ばれるドイツ王国へと継承されます)。そして、ルートヴィヒ敬虔王が重用したアニアーヌのベネディクトの目指した修道生活の改革も水泡に帰します。

また、フランク王国が分裂したためにその力が弱って教会への世俗諸侯の介入が減少する、ということもありませんでした。先に述べたように私有教会制や封建社会に教会や修道院が組み込まれること(帝国教会制)によって、一般の聖職者や司教、修道院の院長の任命に世俗諸侯が介入するどころか、実質それらの任命権自体を有しているという状況だったのです。また少し後の時代ではありますが、カール大帝の直系子孫が絶えた後もオットー3 世(王在位 983-1002)のようにローマに遠征し、自ら立てた近親者の教皇によって自分に帝冠を戴冠させたり、教皇に忠誠を要求したり、対立教皇とはいえ残忍な刑に処した事例もあるくらいで、むしろ世俗社会の混乱に教会も巻き込まれていたのです。

このような状況で世俗諸侯と教会の間に、主に聖職者の任命権を巡って対立が生じた歴史的な状況を「叙任権闘争」といいます。ただその戦いも皇帝や世俗諸侯との協力がなければ、現実的ではなかったようです。アニアーヌのベネディクトの改革はルートヴィヒ敬虔王の庇護の下にありましたし、世俗の権力の影響を排そうとしたクリュニーの修道院もアキテーヌ公ギヨームが創立に関わり、有能で聖性にも秀でていたとはいえ貴族出身で諸侯との関係が円滑であ

った第5代院長オディロンと第6代院長フーゴによって発展しています。私有教会制や俗人による聖職者の任命を批判し、ローマ貴族の影響を排し教皇庁を改革しようと枢機卿会を整備したクリュニー系の修道院出身の教皇レオ9世(在位1049-54)は、教皇選挙によって選ばれたとはいえ従兄弟であるハインリヒ 3 世の指名も受けています(彼の整備した枢機卿会はとても重要です。彼はそこに改革派の聖職者を集めますが、そのうちに後の教皇グレゴリオ7世も含まれています。さらに1059年のニコラオ2世による教皇選挙令によって、教皇は枢機卿会議によって選ぶものとされ、皇帝やローマ貴族の教皇選挙への関与が排除されることになりました)。

聖俗双方での混乱や衰退がしのばれると思います。クリュニーであれ、その他の改革を試みた修道院であれ、この時代、俗権や戦乱の及ばない辺鄙なところを選んで創立されていったのも理解できます。

v. 時代背景④:「代祷」、「死者のための祈り」

ともかく、彼らクリュニーの修道士が労働を減じて典礼の時間を多くとるのも、修道生活を送ることのできない世俗社会の人々のために祈る「代祷」のためでした。彼らの聖務は毎日 8 時間を超え、日々2 回のミサ、ベネディクトの戒律以上の量の詩篇共唱に加えてその前後に詩篇を唱え、死者のための代祷、一週間で創世記を読み終わる程度の分量の聖書朗読、十字架崇敬、修道生活の模範としてのマリア崇敬に特色があります。また歓待や施しは善行として重要視されていましたので、宿泊施設としての機能や、食料の配給所としての機能も持っていました。

この時代よりずいぶん前から、「煉獄」の概念の広まりとともに「死者のための祈り」が重視されるようになり、修道院等で通常の聖務日課(詩篇の共唱を中心とした「教会の祈り」のことです)に加えて「死者のための聖務日課」というものが唱えられるようになっていました。葬儀の中心はこの詩篇唱和だったのです。ただ自分の死後に荘厳なミサが沢山捧げられるよう、相当額のミサ奉納金を残す人々が諸侯を中心に増え、こうした死後への関心の高まりと共に、現在でも行われるように死者の名前をミサの中で挙げて記念する「代願(memento)」が 9 世紀には始まったようです。クリュニーの修道院の日課も、こうした流れを反映しています。

ここで既にお気づきかも知れませんが、世俗の人々のために代わって祈る性質上、多くの意向を受け取ることになります。クリュニーの修道院も多くの死者の祈念を行っていたようですが、年月とともにその量が余りに膨大となった結果、死者の日の制定に至った側面もあるようです(これは『クリュニー修道制の研究』の中で、万霊節という昔の名称で言及されるところを参照なさるといいと思います)。

vi. 時代背景④:「諸聖人の祭日」との関連

ただ、このクリュニーの修道院での死者の日制定の背景には「諸聖人の祭日」の影響もあります。そもそも死者の日は諸聖人の祭日の翌日に定められたのですから当然と言えば当然です。

諸聖人の祭日の起源は、4世紀の東方の教会で「全ての殉教者を記念する」日として5月13日、あるいは聖霊降臨の次の主日(アンティオキア)や復活の金曜(東シリア)などで祝われ始めたものです。「殉教者」と限定されているように見えますが、古代から中世初期においては聖

人とは誰よりもまず、殉教者であったためですので、やがて「諸聖人」と言われるようになるのも当然のことです。

この東方の典礼が、教皇ボニファチオ 4 世(608-615)によって西方教会でも祝われるようになります。ちょうどローマのパンテオン(万神殿)が 609 年か 610 年に教会に譲られ、5 月 13 日にそれを聖マリアと全ての殉教者に献げる聖堂としたことを記念したものです。時代は下り、8 世紀にグレゴリオ 3 世がサン・ピエトロに全ての聖人のための小聖堂を設けるなど、諸聖人を記念することは以後も盛んになります。

この同じく 8 世紀に 11 月 1 日に諸聖人を記念する習慣がイングランドやアイルランドに現れます。そしてこの地域はキリスト教の先進地域でもありましたから、やがてそれが大陸に波及することになります。最初の方で述べたように、カール大帝にヨークから招かれたアルクインが、11 月 1 日を諸聖人の記念日として典礼暦に導入することになりました。やがてこれを教皇グレゴリオ 4 世が、皇帝ルートヴィヒ 1 世(先述のルートヴィヒ敬虔王です)に頼んで、フランク王国全土に義務付けます。

こうして典礼暦(一般ローマ暦)では、現在のように 11 月 1 日が諸聖人の祭日となりました。

II. 「諸聖人の祭日」と「死者の日」が表すもの

i. 「聖徒の交わり」と「諸聖人の通功」:「天上の教会」「地上の教会」「煉獄の教会」

この諸聖人の祭日は、信仰宣言に言われる「聖徒の交わり」と深いかかわりがありますのでそこを見ておきましょう。

「聖徒の交わり」をかつて「諸聖人の通功」と言っていたのは、古くからの方はご存知と思います。訳が変わっただけで「Communio sanctorum」というラテン語は全然変わっていないのですが、この語の意味するところをどう捉えるかという問題です。

以前ほど言われなくなりましたが、「天上の教会」「地上の教会」「煉獄の教会」という表現があります。これは古代から現在に至るまで、一貫して受け継がれてきた「教会」というものの捉え方と関わっています。教会を「信者の集まり」としての面からみた場合、誠実に生きる人々も含めて、この現に地上に存在する制度的な教会以上の広がりがあることはご存知と思います。さらに誠実に生涯を送り既に亡くなった人々も、永遠のいのちに生きる者であるなら、やはり今も教会を構成しています。

このうち聖なる生活によって確実に神の近くにいると理解される人々、つまり諸聖人を天上の教会と呼ぶのは分かりやすいと思います。私達の日常において、誰かのために祈るのは当然かつ大切なことですし、また誰かに自分のために祈ってもらうこともあります。ならば、聖なる生活によって神に近いところにいる聖人たちに、「祈ってください」と頼むのは当然のことです。これを「取次ぎ」と言います。「わたしたちのために祈ってください」と聖マリア初め諸聖人に取次ぎを願うのは、伝統的なよい祈りの習慣の一つです。

では、諸聖人以外の人々についてはどうかというと、たとえ小さな罪が残ったり、罪を赦されても完全に償えていなかったりしても、神のいつくしみによって死後にも救いの希望があると考えられます。この神によって救われることへの希望、つまり「死後の清め」と呼ばれるも

のが「煉獄」という言葉の意味です。そこで日常で誰かのために祈るのと同様に、私達はそのような人々が救いによりよく与るよう神に祈るのです。これが「代祷」や「代願」の意味です。

お分かりいただけると思いますが、「天上の教会」と「地上の教会」と「煉獄の教会」とはいえども、３つの教会が存在するのではなく、１つの教会の広がりをいっています。誰かが誰かのために祈っている姿こそ、教会の姿なのですが、それは地上の教会に限定されていないということです。これは死によっても引き裂かれない教会の祈りにおける一致(交わり)の姿なのです。

かつては天上の教会の人々に救いのために祈ってもらうということから、諸聖人の功(いさおし)、つまり彼らが聖なる生活によって築き上げた功徳を、地上と煉獄の教会のために分かち与えてもらうイメージが非常に強くあり、「諸聖人の通功」と言っていました。しかし、本来私たち地上の教会も祈る者であり、人のために善を行うよう招かれている者でもあります。そこで、教会を構成する全ての人々との祈りにおける交わり(一致)を含意して「聖徒の交わり」というのです。この交わり(Communio)は、キリスト者相互の交わりですが、同時に聖体の秘跡における交わり(拝領もcommunioといいます)によって特によく示されます(カテキズムの960, 961などを参照なさるといいでしょう)。

ミサやロザリオで「聖徒の交わり」というたび、どうぞ自分もそこに含まれていることを思い起こしてください。

ii.　諸聖人の祭日に続いて死者の日を祝うことの意義

クリュニーの修道院の人々は、修道生活の改革を志しながら自らを宗教的なエリートと考えていたわけではありません。修道院で聖なる生活を送ろうと努力しつつ、そうは生きられない世俗の人々のために奉仕し祈る人々でした。それは自らも罪人、同じ地上の弱い人間であることを意識し、その祈りの内に彼らと一致(交わり)を持っていたことに他なりません。彼らは諸聖人の取次ぎに支えられながらも、自らは世俗の人々のため、また死者のために祈っていました。死者のために祈ることは、単に死者のために祈ってほしいという世俗の人々の要望に応えるものなのではなく、それまでに世を去った多くの修道者たちとの兄弟的な交わりが失われるわけではないことを表す大切なものでもありました。

こうして諸聖人の日に続いて死者の日を祝うことは、先に挙げたような天上・地上・煉獄の教会の交わりをよく表すものであると分かると思います。この死者の日は、クリュニーの修道院の影響を受けた多くの修道院を通じて、速やかに西方の教会全土に広まることになります。

現在でも同様に、諸聖人の日に続いて死者の日を祝うことは、私たちの教会の現実を捉えるよい機会となります。教会とは単に社会の中における一組織なのではなく、誠実に生きる人々、既に世を去った人々とも祈りにおいて交わりを持っています。また、私たちは単に諸聖人の功徳を分かち与えられることを望むだけの者ではなく、私たち自身も人々のために、それも生者も死者も含めて人々のために祈るものです。

そして何より、信仰によって結ばれた私たちの交わりは、死によっても引き裂かれることはないという希望も、諸聖人の祭日と死者の日は表しています。

10 月 23 日（土）24 日（日）備後協働体研修会開催

尾道教会担当で、昨年コロナ禍で延期されていた研修会が柳田敏洋神父さまをお迎えして開催された。テーマは、「私たちは聖性に招かれている」～教皇フランシスコの使徒的勧告『喜びに喜べ』に基づいて～。23 日（土）は、福山教会で、18:00 ミサ 19:00～講演を行い、24 日（日）は、尾道教会で、9:30 ミサ 10:30～講演が行われた。

瞑想中の神父さま

福山教会でミサをささげる神父さま

【講師紹介】イエズス会司祭　柳田敏洋（やなぎだ としひろ）神父

・1952 年生まれ。京都出身。1977 年京都大学大学院工学研究科化学工学専攻修士課程修了後、民間企業に技術研究員として従事。

・1983 年宗教法人カトリック・イエズス会入会。1988 年上智大学大学院哲学研究科哲学専攻博士前期課程修了。1992 年上智大学大学院神学研究科神学専攻博士前期課程修了。

・1991 年カトリック司祭叙階。その後、米国、カナダにて「霊操」指導コースを研修。帰国後、イエズス会修練長職を 11 年間務め、また各地で黙想指導に携わってきた。その間、インドでヨーガ、仏教のヴィパッサナー瞑想を体験し、キリスト教霊性と東洋の霊性の統合に取り組んでいる。

・1994 年 12 月から翌年 4 月までカルカッタ（現在のコルカタ）に滞在し、マザー・テレサの施設「死を待つ人の家」や「ハンセン病者のセンター」でボランティアを体験し、心を込めた無償の奉仕の大切さをマザー・テレサから学んだ。

・2007 年から 2014 年エリザベト音楽大学教授。2011 年から 2015 年 5 月エリザベト音楽大学理事長。

・2014 年 6 月よりイエズス会無原罪聖母修道院責任者。イエズス会霊性センター「せせらぎ」所長。著書に、『日常で神とひびく』、『日常で神とひびく 2』（いずれも、ドン・ボスコ社）。

「私」は今！・・・柳田神父様の講話から　　福山教会　中島　知子

レジュメをいただき、はじめに心に響いたのは〈・・・御父があなたを造られた時に思い描かれたものとなり、本当の自分となるのです。〉という文でした。なぜか安堵した、癒されたような感覚を覚えました。自己流に、私でも神様の視野の中にいるのだと思ったのかもしれません。

柳田神父様の講話に、〈「本当の私」を生きるために「三つの私」を見わける〉という箇所がありました。「建前の私」「正直な私」「真実な私」が自分の中にあり、それを見わけつつ「真実の私」を育み、聖性を生きるものとなれたら、というお話だったと思います。

「建前の私」「正直な私」とは【他者の前での私、対面を気にする、周りに同調、愛想よさ、利害損得の本音の私、好き嫌いの直接感情、決めつけや思い込み】という姿の自分だと。普段の私たちはそうだと。

確かに。そのとおりだなと心の中で納得しました。40 年近く公立小学校に勤めましたが、まさしく、この二つの「私」で生きてきました。腹の中は煮えくり返るほどなのに笑顔でいたり、口もききたくない同僚なのにお世辞を言ったり、長い物には巻かれたり、二枚どころか何十という舌を使ったり・・・そうやって大過なく過ごしました。

4 年間、暁の星小学校に勤めました。はじめて自分に正直になれました。自分の信仰を語ることができました。祈ることもできました。私の価値観を理解してくれる保護者、子どもたち、同僚がいました。二枚も舌が必要ありませんでした。誠実に生きることができました。

しかし、こんな日々でも「真実の私」にはほど遠いようです。【神と響く、「本当の私」、心底の望みに生きる私、他者への誠実、真の共感、無条件の愛、存在肯定の場】と言われたらお手上げ状態です。いまだに様々な物事に条件付きで対応している「私」がいます。エゴと建前の「私」がいます。

神父様は「真実の私」を育む方法を教えてくださいましたが、ストンと腑に落ちませんでした。それだけ聖性への道から外れているようです。ただ、お話の中の語られた、『神はその人に絶望しない』という言葉にしがみつき、神様が私に望まれる姿になれるように日々祈り続けたいと思っています。

アガペの御心が望まれること　　尾道教会　諫見　康弘

2021 年 10 月 24 日、第 30 主日ミサ後、広島教区備後協働体研修会 2 日目が尾道カトリック教会にて開催されました。演題は「私たちは聖性に招かれている」、演者は柳田敏洋神父様でした。神のアガペは周りに満ち満ちているが、さりげなく隠れているため気づかれにくく、気づかれなくても全く自己主張しない。この愛に気づくよう瞑想することが「真実の私」を生きることにつながっていく。「真実の私」を育み神様と響き会えるその「本当の私」を深めていくことをアガペの霊は望んでおられる。神様が与えて下さっているこの「本当の私」に目覚め、ここに自己同一性を置くことがまことの謙虚さ、まことの平和を生む。以上が私に与えられた本日の学びでした。そして、沈黙の実りは祈り、祈りの実りは信仰、信仰の実りは愛、愛の実りは奉仕、奉仕の実りは平和というマザーテレサの言葉を想い起したのでした。

10 月 23 日（福山教会）備後協働体研修テーマ「私たちは聖性に招かれている」　上野　恵子

柳田敏洋神父様の講話内容の一部ですが、神様は私達が生まれた時から、心の中に来てくださっていること。信仰の有無や、心の清らかさに関係なく、人の存在を無条件に肯定される、無償の愛であること。神様の思いは人の思いとは違い、はるかに越えていること。自分の誤解や、思い込みから　ネガティブな思考や感情の傷が、心を苦しめていること。

気づいて、あるがまま認めて受け入れること。神様に祈る具体的な方法は、感情に囚われず、執着せず、裁かずに　心を空に、無にして「本当の私」となる時に、神様が働いてくださり、心は平和で満たされること等々、沢山のことを教えて頂きました。神父様のネット動画や『神を追い越さない』という来月発売の本を購入し、霊性を深め、神様を感じ、気づけるように学びたいと思いました。神父様をはじめ関係された方々、神様に感謝いたします。

【シリーズ５：教区代表者会議】

福男と福子のおしゃべり

コロナもようやく収まってきて、本当に良かったのう。

ほんま。ミサも公開になって、みんなにも会えてホッとしたわ。神父様も最近ニコニコだもんね。

ところで教区代表者会議やるいうて言ってたけど、本当にやるんけ？

やるらしいよ。ただし一箇所に集まらんと、最近はやりのズームでやるんだって。

ズームって、何を拡大するん？

カメラのズームじゃなくて、パソコンやスマホで遠くにいる人と話せる方法よ。最近やった人に聞いたら、まるで近くにいるみたいに人と話ができるらしいよ。

ふーん。世の中も進んだもんじゃのお。で、何を話すんじゃ？

5 つのテーマがあるんだけど、福山は最近増えてきている外国人の信者さんとの関わりについてと、教会の新しい協力のあり方というテーマを選んだんよ。

それそれ。わしも外国の人と仲良くしたいし、何か困っていることがあったら、一肌脱いでもええと思うとるんじゃ。で、何をすればええ？

広島教区としてこれから何を取り組むか、司教様が来年発表されるんじゃて。その参考になる意見をうちらに聞きたいんじゃて。どこの教会も高齢化しているんで、これから教会の中や隣の教会とどう協力していくかも大事なテーマよね。

確かにこれからの教会のことも、皆んなで知恵出し合って、進めていかんといけんのう。わしも意見いうてええんかいのう？

ええらしいよ。うちらの教会からは、神父さんと野田茂生さんと藤井幸恵さんが出るんじゃと。事務の星さんも召命学校の代表で出るんじゃと。田中靖さんも何か係をやっとるよ。その誰かに言えばええらしいよ。

わかった！じゃあ今度委員の人に会ったら伝えにゃいけんな。

こちらから言うばぁじゃなくて、成功するようにお祈りも大事やけんね。司教様や委員の人たちのために皆んなでお祈りしましょう。

今度の司教さんはなんか優しい感じで、お手伝いしたくなるお方じゃな。よし、じゃあわしも手伝うぞ。他にどんなテーマがあるんじゃ？

あとは、福音宣教と平和と養成じゃて。まあテーマは色々あるけど、司教様にお伝えしたことがあればなんでもええんと違うん？

おおそうじゃ。では早速、ブツブツ・・

南相馬便り㉞２０２１年10月　　援助マリア会南相馬修道院　北村令子

ちょっと古いニュースですが、7月2日の「福島民報」の記事に驚くべきことが書かれていました。（全国紙では報道されていないでしょう）

東京電力福島第一原子力発電所の原発事故の事故処理や廃炉作業で使われた 8000 ベクレル以上（8000 ベクレル以下の物で焼却できる物は減容化施設で焼却され灰にする）の放射線量の高い廃棄物（燃料取り出しの作業員の作業服なども）が収められているはずの、約 4000 基以上のコンテナの内容物が不明であると。すなわち何が入っているか分からないということです。こんなことがあり得るのでしょうか？しかも、そのうちの 500 基以上はコンテナが腐食していて１基から水が漏れているとのこと。

このことを地元の人に話したところ、驚いたことに、「東電のすることだからちっとも驚かな

548基に腐食、へこみ

目視点検「行き届かなかった」

東電コンテナ中身不明問題

東京電力が福島第一原発にあるコンテナのうち約四千基の中身を正確に把握できていない問題に絡み、東電は目視によるコンテナの外観点検をした結果、五百四十八基で著しい腐食やへこみが見つかったと二日発表した。東電は原発事故後、定期的に周辺の現場パトロールを実施していたが、担当者は記者会見で「目が行き届かなかった所がある」と説明した。

目視点検は、構内のコンテナのうち表面の放射線量率が比較的高い五千三百三十八基が対象。四月十五日から六月二十日までに三千四百六十七基を調べた結果、二百七十二基で腐食、二百七十六基でへこみを確認した。五千三百二十八基のうち三千四百二十六基は中身を正確に把握できていない。

腐食は経年劣化、へこみは移動などの際に生じたとみている。腐食やへこみは義生テープを貼って補修した。点検した三千四百六十七基は、コンテナからの水漏れが底に判明している一基を除き、水漏れはなかった。残る千八百七十一基は今月中に調査する。

◇◇

東電は一日、目視点検と、その後に実施する予定の内容物の確認作業が約一カ月遅れる見通しとの見通し。コンテナ

賠償総額

原発事

東京電力が福島第一原発事故の被害者に支払った賠償金の総額が十兆円を超えた。六月二十五日現在の総額は十兆三百六億円に上る。

東電によると、内訳は法人・個人事業主などの営業損害や風評被害への賠償が約六兆三千六十三億円で最も多い。避難指示区域で生活していた個人の精神的損害など約三兆二

原子力

争審査会

に、四月

田薫氏の

長に、東

授の内田

原賠審

2021年7月30日(金)

処理水で魚飼育

東電 来年夏に試験開始

東京電力は福島第一原発で発生するトリチウムを含む処理水の処分による風評の抑制対策として、海水で薄めて海洋放出時と同水準（一リットル当たりトリチウム五〇〇ベクレル程度）まで薄めた処理水を来年夏に始める試験を来年夏に始め、それぞれ魚を飼育する。魚に含まれるトリチウム濃度や魚の生存率などの影響を比較する。

福島第一原発敷地内で発生するトリチウムを含む処理水の処分に関する風評の抑制対策として、海水で薄めて海洋放出時と同水準（一リットル当たりトリチウム五〇〇ベクレル程度）まで薄めた処理水を来年夏に始める試験を来年夏に始め、それぞれ魚を飼育する。魚に含まれるトリチウム濃度や魚の生存率などの影響を比較する。

福島第一原発敷地内で発生するトリチウムを含む処理水の処分に関する風評の抑制対策として、海水で薄めて海洋放出時と同水準（一リットル当たりトリチウム五〇〇ベクレル程度）まで薄めた処理水を来年夏に始める試験を来年夏に始め、それぞれ魚を飼育する。魚に含まれるトリチウム濃度や魚の生存率などの影響を比較する。

今年秋に海水での飼育を始め、飼育に慣れた来年夏に試験を開始する。魚はヒラメや貝類などを考える。分析結果を公表するほか、飼育水の映像をウェブ上で中継する。

政府は四月、処理水を海洋に放出する方針を決定。東電はトリチウム濃度を国の基準の四十分の一未満まで薄め、二年後を目途に福島第一原発敷地内から放出に着手する方針だが、県民からは、風評被害が上乗せされると懸念の声が根強い。

希釈処理水による魚の飼育試験のイメージ

いよ！東電は親方日の丸だから。その辺の工場よりも危機管理はなってない。」とのこと。その反応にも驚きました。東電の関連会社にご主人がお勤めの方がおられるので気を遣っていたら、「そんなのはうちの主人の会社のような下請けに責任が負わされるんだ。」と。「普通、いろんなものを整理したら、箱の表に内容を書くんじゃないですか？」、「イヤ、表に書いて中身が分かっちゃいけないんだよ！」「じゃ、コンテナの底にでも貼っておけば！」国と東電の安心安全神話に騙された地元の人々には、国と東電に対する根深い不信感があり、事ごとにその不信は深まっていくのです。

7月30日の新聞に、「処理水（トリチウムを含む汚染水のこと）で魚（ヒラメや貝類など）を飼育」と書かれている記事を見つけて私は唖然としました。トリチウム汚染水の海洋放出が安全かどうかは、その水で魚を飼ってみればわかるではないかと前から私が言っていたことで、こんなことはとっくの昔に実験しているのだろうと思っていたのですが、今頃になって新聞に載るほどのことかと驚きです。このこと一つとっても東電や国の原発事故に対する取り組みの甘さを見ることができます。

セシウムの半減期は30年と長いのですが、トリチウムは13年と言われています。東電の敷地はまだまだ大きく、7号機8号機の建設予定地が遊んでいるとのこと。そこにタンクを増設して保管し、処理方法の研究をして本当に安全な方法を開発することの考えはないのでしょうか？ケン・ブセラー博士（米ウッズホール海洋研究所）の記事に、トリチウムの半減期を考えタンクで保管するほうが良い、時間が解決してくれる、との考えがあることを知りました。言うほどやさしくはないことは分かっていますが、国と東電の姿勢があまりにもいい加減なのに驚き、怒りさえ覚えます。何をそんなにいきり立っているのかと、皆さんは私の反応をおかしく感じておられるかもしれませんが、トリチウム汚染水の海洋放出が実施され、風評被害が再燃すれば、何万人の生活と命がかかっているのですから、黙っていられないのです。誰かに言いたい、もっと多くの人に本当のこと、地元の人たちの不安・苦しみを知って頂きたいのです。

7 月のある月曜日、カリタス南相馬のベースを休業にして、皆で岩手県の大籠殉教地へ巡礼に行きました。東北にはたくさんの殉教者・殉教地があります。大籠の殉教地は伊達藩で製鉄の技術者がキリスト教を伝えたと言われています。鉄砲の製造に鉄が欠かせないので伊達藩はこの製鉄所を中心に広まったキリスト教を保護していましたが、禁教令が厳しくなりかばい切れなくなってキリシタン弾圧へと進んでいきます。しかし、キリシタンは領民と大変良い関係を築いていたので、処刑の場所や、葬り方に見せしめとしてでなく、大切に扱われました。そのこともあって、現在でもこの殉教地をキリスト信者ではない市民が管理しておられます。私たちに殉教の地を
案内し説明してくださった方も信徒の方でなく、祖父からこう聞いていますと説明してくださいました。

殉教公園：309 人の殉教者にちなんで 309 段上　首塚：家族が首を袖に入れて運び葬った小山の頂上の見晴らしの良い所に丁寧に葬られた殉教者の塚。獣が掘り返さないようにと、石で表面が覆われている。

いろんなところに殉教の跡があるが、見せしめのためのものばかりでないことに、この地の殉教者と領民の人々との良いかかわりの生活の証がくみ取られるのが、私にとっては嬉しい発見でした。たくさんの紹介ができないのですが、インターネットで「大籠（おおかご）の殉教者」で検索すればよいのでぜひ見てください。帰りにカリタス南三陸のベースに寄り、10 年にわたる活動報告を聞き、住民の方々とのかかわりの構築等、沢山勉強になりました。まさしく研修旅行でした。　　今日はここまで。

七五三のお祝いを迎える子どもたちです。おめでとう♡

・ヨセフ村上湊音　・マリア井上智美　・Liam Eiji Itou Suzuka　・マリアローザ森彩乃

・Giacob Pham Huu Nhat Dang ・マリアモニカ Javier Santander Maria Monica

・ベロニカ ヒルデガルト本多光璃　・Sachika 田辺幸華　・マテオ瀬分秋夜

・マリア小川鈴菜　・ヨセフ藤井結斗　・パウロ南直道　・マリアヤエ渡辺八重

・ガブリエル Jopia Akihiro ・ヨセフ千種理仁　・中見 Marteija Yui

・マリア Hoang Thi Linh Chi　・ミカエル橋本悠磨　・武田 Raiga

・セシリア井上仁美・マリア久保田真愛　・メソネスアマヤ ライネル ガエル

子どもたちが神様の愛の中で喜びをもって健やかに育っていきますように。

帰天のお知らせ

10 月 11 日 シエナのカタリナ村上芳枝(96 歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

つきましては**教会で葬儀を希望される場合**、特に遺されるご家族が未信者の場合など身内の方に教会での葬儀の希望を伝えておいてください。時々亡くなった方はカトリック信者なのにそのことが伝わっていなくて、仏教やそのほかの宗教の葬儀となる場合があります。

もしカトリック教会の葬儀についてお聞きになりたいことがあれば、遠慮なく神父様か事務室にお尋ねください。

１１・１２月の行事予定

１１　月		１２　月	
1(月)	諸聖人	5(日)	待降節黙想会
2(火)	死者の日	8(水)	無原罪の聖マリア
3(水)	満葉杯ソフトボール大会（中止）	25(土)	主の降誕
14(日)	七五三のお祝い	26(日)	聖家族
23(火)	教区代表者会議	31(金)	聖時間
28(日)	教会大掃除		

このままコロナが収束していくことを祈ってます…H　　月報委員会